

2. 大学院と現場との循環システムの成果と残された課題

4)「通信・通学融合型教育」

通信・通学融合型教育の追究

日本福祉大学大学院
社会福祉学専攻(通信教育)
専攻主任 後藤 澄江

通信・通学融合型教育のねらいと改善・充実点

社会人を対象とした大学院の教育課程の編成においては、院生の生活の時間的・空間的バランスに配慮することが不可欠である。ワーク（仕事）とライフ（生活）のうえに、さらにリサーチ（研究）が加わることから、職場や家庭生活との新たなバランスを見いだせないままに、当初の目標を断念せざるをえない院生も少なからず存在する。通信・通学融合型教育は、高度専門職養育内容の充実を図りつつも、院生への新たな時間的・空間的負荷を極力少なくすることをねらいとしたプログラムである。

大学院G Pのもとでの通信・通学融合型教育の追究によって、高度専門職業人の育成に向けての教育内容の充実と、一方での、時間的・空間的制約の緩和による社会人院生の学習・研究の継続保障を図った。社会福祉学専攻（通信教育）課程の院生に対しては、週末（土・日曜）の活用による集中講義や学内外で本大学院が主催する講座・セミナーの受講による単位認定申請が可能となる科目の新設など、対面授業の機会を増やした。また、医療・福祉マネジメント研究科および福祉マネジメント専攻の通学課程の院生に対しては、通信課程院生と合同での週末講義やオンデマンド講義の試行によって、平日に通学できる日数が少ない場合でも修了できる工夫をおこなった。

具体的な実施内容

通信・通学融合型教育のプログラムとして導入・実施した具体的な取組として、平成20年度からの週末を活用した対面授業の拡充、平成21年度に開設した医療・福祉マネジメント研究科における開講形態の工夫、そして、ライブラリー化に向けてのオンデマンド教材・VTR教材の作成があげられる。

詳細は以下の通りである。

（１） 週末を活用した対面授業の拡充

平成20年度から開講した「福祉マネジメント特講Ⅰ」および「福祉マネジメント特講Ⅱ」では、高度専門職業人の育成をねらいとした講義内容を準備するとともに、週末（土・日曜）を活用する形とした。

- ・福祉マネジメント特講Ⅰの開講形態
（土曜集中型でリレー講義→通信・通学双方の院生が履修可能）
- ・福祉マネジメント特講Ⅱの開講形態
（土・日集中型で外部向け講義の受講の組合せによる単位認定→通信・通学双方の院生が履修可能）

（２） 医療・福祉マネジメント研究科の開講形態の工夫

平成21年度に開設した新研究科・医療・福祉マネジメント研究科では、社会福祉研究科での通学課程で直面した課題を乗り越えるため、講義・演習の開講形態の工夫を実施した。必須科目を金曜日に集中させ平日の拘束日数を減らすとともに、土日の集中講義を増やすなど、社会人院生が学びやすいような開講形態を整備した。

(3) オンデマンド教材・VTR教材の作成とライブラリー化に向けての準備

通信・通学融合型教育プログラムのさらなる充実のためには、良質なオンデマンド教材やVTR教材を作成してライブラリー化することも有効である。将来の本格的なライブラリー化に向けて、ケースメソッド導入講義、スーパービジョン講義等のオンデマンド教材作成やモデル現場の取材内容を収録したビデオ教材等、以下の①—③を作成した。また、平成21年度においては、作成したオンデマンド教材の一部を、本学で導入されているE-learningサポートシステムに配置を試み、ライブラリー化に向けて教材およびシステムについて残された課題を整理した。

① ケースメソッド導入講義等のオンデマンド教材作成

教材名)

- 「ケースメソッド教育法」
- 「ケースメソッドとは」
- 「ケースメソッドの教育効果」
- 「高度専門職業人に求められる実践力の養成方法」
- 「福祉専門職養成教育とスーパービジョン」

② オンデマンド・ライブラリーの設置に向け、講義を撮影してオンデマンド教材作成

教材名)

- 「福祉サービスマネジメント概論」
- 「研究方法概論」
- 「経営管理概論」



③ 循環システム形成のために取材した社会福祉モデル現場の内容をVTR化

教材名)

- 「福祉マネジメント—北海道・愛知県での新しい実践」(北海道すずらん, 愛知県むそう)

把握された成果

週末を活用した対面講義の拡充、医療・福祉マネジメント研究科における開講形態の工夫、そして、オンデマンド教材やVTR教材の作成等によって、時間的・空間的制約の緩和による社会人院生の学習・研究の継続保障と高度な専門職教育内容の充実を同時達成できる方向での教育プログラムを実施した結果、以下のような一定の成果が把握された。

週末を活用した対面講義の拡充や医療・福祉マネジメント研究科における開講形態の工夫を実施して、平成21年度通学課程進学者に対しては、高度な専門職教育内容の充実と平日の拘束日数を削減することが同時達成できた。

また、オンデマンド教材やVTR教材の作成を実施したことで、以下のような成果をもたらした。

- ① 通信課程院生に対しては、スクーリングの事前事後の教材補完機能
- ② 通学課程院生に対しては、仕事や病気等による出席困難な際の講義の情報保障機能
- ③ 通信・通学双方の院生に対して、前年度の討論場面の事前参照による、講義・演習の活性化機能

残された課題と今後の方策

大学院GPのもとで開始された通信・通学融合型教育の追究の試みは、一定の成果はみられるものの、まだ取組途上である。通信課程の開講科目を社会福祉学研究所および医療・福祉マネジメント研究科の通学課程へ一部開放する取組をはじめ、残された課題と今後の方策について、以下に整理しておきたい。

- ① 福祉や医療分野の高度専門職業人養成にとって経営の知識や応用力が重要であるとの判断から、社会福祉学研究所通信課程において、医療・福祉マネジメント研究科通学課程の経営領域科目を平成22年度から開設することになった。通信課程の院生には、引続きそのねらいを説明するなど円滑な着地のための取組を推進していく。
- ② 通信・通学融合型教育プログラムのメリットの波及に関しては、通信課程の院生に比べ、通学課程の院生に対してはより拡充させる必要がある。そのためには、通信課程の開講科目のうち、高度専門職養成のために効果的な開講科目を通学課程へ開放することの検討を始める。
- ③ ライブラリー化に向けて作成したオンデマンド教材については、試運転の際に確認された改善すべき点や院生の声を反映し、修正・調整することでより精緻化させる計画である。
- ④ 作成したオンデマンド教材を院生および教員が効果的に活用するためには、予算の制約があるものの、大学院教育に見合った形態へのE-learningサポートシステムの改善・開発が求められるため、学内調整を図り、システム開発に着手していく。